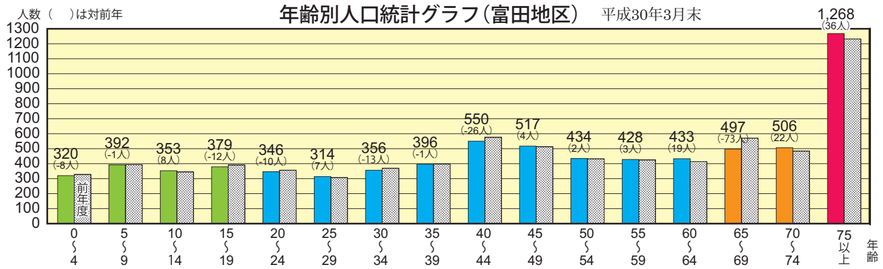
桃花だより

平成30年5月
第39号
富田地区
社　協
㈲二華園印刷

ラブウォーク　井原　嫁いらず観音院

年齢別人口統計グラフ（富田地区）　平成30年3月末



富田地区人口統計（小学校区）

（平成30年3月末現在）

項　目	世帯又は人数	対 前 年
世 帯 数	3,049世帯	＋21世帯
男　性	3,545人	－7人
女　性	3,944人	－36人
総人口数	7,489人	－43人

ごあいさつ

富田地区社会福祉協議会
会長　西尾精一

風薫るさわやかな季節となりましたが、皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申しあげます。

富田地区社協の諸行事も地域住民の皆様をはじめ、支部役員・各種団体の方々のご協力により、年々盛大に開催されますことに厚く御礼申し上げます。

長く慣れ親しんだ行事も長い年月を経て、より充実したものとなっています。地域の方々から貴重なご意見を頂きながら、新たな行事の取り組みについても常に見直しを行っています。現在の行事もそのほとんどが二十年経過しており、時代背景や環境の変化も変わりつつある中で、伝統的な文化の大切さや災害への取り組みも重要なものと考えられます。そんな現状を意識しながら今後の活動の柱になればと考えています。

さて、平成二十九年の人口統計で、倉敷市も初めて人口減少が確認されました。その数は数百名と多くはありませんが、今後減少は進んでいくことは容易に考えられます。その要因は転入転出が一因と言われています。

しかし今後は、子ども達の減少も大きなウエイトになるでしょう。減少は地域全体の活力の低下に繋がります。

幸いにして私たちの地域は、今後数年間は現状を維持するようですが、子どもを取り巻く環境は私たちが想像する以上に複雑になっています。

生活しやすい環境、子育てしやすい環境、更には地域的な魅力も必要です。全ての人が一丸となって、住んでいて良かったと思える地域にしたいものです。

十二月三日(日) 人権学習

今日は、高知の「自由民権記念会館」を訪ねる研修会に参加しました。

まず、高知へ行くバスの中で、江戸時代に於ける身分についてのビデオを見て、「人権問題」が発生した経緯を学習しました。

そして、ガイドさんの軽妙なガイドを聞きながら、例えば高知の名前の由来は、昔は〝河中〟と書いたが水害が多く続いたので〝高知〟と改名したとところ、水害が無くなったなどの話を聞いている内に最初の目的地へ到着しました。

本日の目的の高知市立「自由民権記念会館」は、高知市政百周年を記念して平成二年に設立されました。

専門のガイドさんの約三十分間の熱弁に皆さんも聞き入っていました。「自由は土佐の山間より」と言う言葉のもとに、近代日本の歴史に土佐の「自由民権運動」が大きな役割を果してきたことを、坂本龍馬や板垣退助などの偉人の名を交えて、年表で江戸末期から現代までを克明に書き綴られていました。

次に、高知城近くの高知県立「高知城歴史博物館」を訪ねました。館内の歴史年表には、飛鳥時代に始まり、奈良時代の空海上人・平安時代の紀貫之・江戸時代の山之内一豊・明治時代の板垣退助などの著名な人々の名が見られ、現代までを年表で克明に書かれていました。

そして、勉強して頭が重たくなってきた時に、昼食の時間がきました。やっと一休みが出来ると喜び、カツオのタタキに舌鼓を打ちながらお腹を満たし、そこから最後の目的地の「西島園芸団」へ行きました。今日の勉強のご褒美に、美味しいスイカとメロンをいただき、帰途に着き本日の研修会を無事に終えました。

九月二十四日(日) おとう飯コンテスト

富田学区の皆様には日頃より、富田栄養改善協議会の活動にご協力頂き、ありがとうございます。

平成二十九年度は全国食育推進大会が岡山県で開催され、その中に内閣府の男女共同参画局の『おとう飯キャンペーン』がありました。これは若い世代のお父さんが料理を作る事で、家族とふれあう時間を増やし、お父さんも家事への参加をとの趣旨で企画されたものです。富田栄養改善協議会も食を通して家族とのふれあいを深めてもらえたらと、富田地区社会福祉協議会様のご協力のもと取り組みました。平成二十九年九月二十四日『おとう飯コンテスト』と称して、富田地区の各種団体の皆様にお願いして参加者を募集したところ、予想を上回る二十代から四十代のお父さん二十五名の参加を頂きました。

内閣府の『おとう飯』の心得は

一つ　手早く
一つ　簡単に
一つ　リーズナブルな食材で
一つ　家の調味料を使う
一つ　後片付けは最後まで

です。

富田栄養改善協議会の『おとう飯コンテスト』では、二人から三人分を千円までの予算で一時間以内に作るという条件で行いました。当日は会場をJA岡山西玉島北支店様のご厚意で広い加工室をお借りし、参加者二十四名と各種団体代表の十二名の審査員の皆様、栄養委員八名、各取材の方々と多くの人が集まり、会場は熱気に溢れていました。若いお父さん達は広い加工室を所狭しと移動しながら、手際よく調理され、素晴らしい料理が時間内に次々と出来上がりました。審査員の皆様は試食をしながら甲乙つけがたく、審査に苦慮されていました。その結果、一位　三門英紀さん、二位　田中満夫さん、三位　原田善樹さん、特別賞　赤澤耕造さん、三宅秀和さんの五名が選ばれました。審査を待つ間、全員で試食をし参加されたお父さん方も皆さん楽しかったと喜んで頂き、大盛況のうちに無事終了致しました。参加頂いた皆様、ご協力頂いた皆様に改めてお礼申し上げます。

これを機に富田栄養改善協議会は、若い世代の皆様に、ご家庭での食育に関心を持っていただけたらと思います。

私たちは、倉敷市食育推進計画の目標である『私達の健康は私達の手で』のスローガンのもと、生活習慣予防の為の毎月の伝達料理の講習、若い世代のための伝達料理講習、男性料理教室や夏休み親子料理教室を実施しています。富田地区の皆様のご参加をお待ちしております。

赤澤　良子

退任のご挨拶

この度は貴重な紙面を拝借して一言御挨拶申し上げます。私事ですが、二年前に肺癌の手術をして以来、世話役活動も欠席が多く皆様に大変ご迷惑をおかけしている次第です。今期が役員改選の時期でもありまして、退任させていただくこととなりました。私の記憶より思い出してみますと、富田村が玉島町と合併して玉島市、同時期に地区住民活動として富田公民館組織が結成され、当時は会議する場所探しにも苦労しました。当時は青年団、婦人会の体育や祭や婦人会の奉仕活動の中心的な任務は謙虚で、公民館活動の団体活動は、青年団員の和同を担って、昭和四十八年同和対策特別措置法に基づき、富田地区社会福祉協議会（現在の富田地区社会福祉協議会の前身）という名称で再スタート。富田教養館も同和対策特別措置法が時限立法のため平成十三年に失効となり、施設は玉島北公民館に移行され、教養館二十八年間の事業取り組み、教養館講座・行事等にお世話頂いた多くの方々が、現在も富田地区社会福祉協議会の組織あげた地域活動をより充実発展させ、会のスローガンでもある「人権を大切にしあう明るく住みよい地域づくり」に皆様のご理解ご協力をお願いいたしまして、退任のごあいさつといたします。

森元　干城

教養館が旧富田村役場跡に建設され、地区内外の同和教育センターとして、また地区住民のふれあいの場として、教養館活動がスタートしました。富田公民館活動の課題となっていた「地区住民全体が参加できる活動へ」の課題解決も、教養館事業の中に、子ども会・青少年育成・成人・高齢者を対象とした事業取り組みにより、富田公民館活動をバックアップし教養館事業を推進、昭和五十七年玉島北中学校区を対象とした玉島北公民館の建設落成に伴い、富田公民館の名称は廃止しなければならなくなり、三十数年間活動して来た活動の歴史をより充実していく組織として、富田地区の各種団体が参加する「富田文化会（現在の富田地区社会福祉協議会の前身）」という名称で再スタート。

編集後記

今回も新聞作成におきまして多くの方々にお忙しい中、記事を提供いただき、ほんとうに有難うございました。

さて、恒例の1面、富田地区年齢別人口統計による総括ですが、今年、総人口については前年比較で43人減少、世帯数は、21世帯増加でした。

●富田地区平均1世帯当たりの人数（家族数）

今年2.46人でした。（前年比較0.03人減）

グラフを作成し始めた平成15年3月の数値2.88人（7,322/2,542）と比較すると0.42人減です。

以下近隣等参考値

●長尾、穂井田、倉敷市の平均1世帯当たり人数（家族数）

・長　尾2.40人（12,193/ 5,082）［前年2.42人（12,082/ 4,989）］
・穂井田2.13人（1,591/ 747）［前年2.20人（1,613/ 734）］
・倉敷市2.31人（482,790/208,905）［前年2.33人（483,576/207,111）］

でした。

総人口については、ここ暫く一進一退が続いていたところなのですが、さすがに富田地区も少子高齢化の影響が出始めたのか、2年続けて減少となりました。

最後に本年も地区の意見を反映してよりよい紙面作りに取組んで参りますのでどんどんご意見をお寄せください。

○編集委員
今井　賢治、江南　秀隆
石井　麗子、平山　光子

○カメラマン
操田　幾紀、佐藤　実
石原　学

※記事に関しましてご意見、ご感想がありましたら玉島北公民館までお寄せください。

29年度の活動報告

五月六日(土) 総会

第三十六回富田地区社会福祉協議会の総会が、五月六日午後七時より北公民館で、協議会の運営に協力していただいている役員さん達が参加され、開催されました。参加者全員で市民憲章・社協憲章を唱和し、西尾会長より、北公民館のエレベータ署名のお礼などの挨拶に続き、顧問・来賓の挨拶があり、議事に入りました。西尾会長を議長に選出し、前年度の事業・会計報告、平成二十九年度の事業計画・会計予算等が審議され、原案通り可決されました。また、わかち合いの西森会長よりテントの寄付をいただきました。今井編集局長より、記事のお礼と富田地区の人口統計の話があり、富田地区も徐々に高齢化しつつありますが、四歳以下が十五人増えているとの話をされました。富田地区の役員さんには、各事業に多く参加・協力して頂き、大変感謝しています。これからも地区の支部長さん・各種団体の役員さんと共に、より良く明るく住みよい富田学区を目指して頑張って行きたいものです。ご意見・ご要望は、各支部長さんまでお寄せ下さい。

江南　秀隆

八月十三日(日) 「夏祭り富田」に参加して

今回、夏祭り富田に運営委員として参加させて頂きました。

その感想を書いて頂けないかと、西尾会長より、お話を頂きましたので、こうして書かせて頂いております。

さて、私は、現在四十歳なのですが、小学生当時にはなかった、夏祭り富田。

そのため、今までは一度参加しただけで、「今年もやってるわ。」ぐらいの感覚でした。

しかし、今年は、運営委員として参加することになり、正直なところ、「仕事してる方がいいかな。」とか考えているうちに、当日をむかえてしまいました。

そして、当日の朝の準備から少し驚きました。

お盆の日曜にも関わらず、朝早くから、大勢の方が準備のために、グラウンドに集まってくるじゃないですか。

今まで、あまり関わりがなかったので、ちょっとした驚きでした。

しかも、いざ準備が始まっても、皆さん長年の経験からか、特に指示がなくても、幾つかのグループに分かれて作業を開始しておられます。

私は、何をしていいのか分からなかったのですが、とりあえず、舞台の設営のお手伝いの輪に入ってみました。

そこには、小・中学校の後輩がいたこともあり、何だかんだと楽しく作業させて頂けました。

そして、午前中の準備は、あっという間に終了しました。

夕方になり、夏祭りが始まっても、各係それぞれが、スムーズに仕事をこなされている様子を見ながら、色々と考えさせられました。

「もう少し、何が出来る事があったんじゃないかな。」

今年の「夏祭り富田」は、二千人を超える方が、来て下さいました。

そんな、地域のお祭りに参加できて、良い勉強になりました。

来年度からも、多くの方が「夏祭り富田」に遊びに来て下さるように、来年度以降も、自分の出来る範囲で、地区の皆さんのお手伝いを出来ればと、感じさせて頂いた「夏祭り富田」でした。

西元　克徳

十月八日(日) 体育祭

平成二十九年十月八日爽やかな秋晴れの下、富田地区体育祭が開催され、各地区激戦の中、笑いあり、涙ありの一日となりました。

十月の体育の日の連休といえば「富田地区体育祭」と言う地域に根付いた一つの行事になっています。

競技では、これから先富田で育っていく「幼児達の紅白球入れ」から スタートし、小学生・中学生そして六十才、七十才以上の方の出場種目もあり、三世代で参加されている家族もいて、声援を送る各地区一体となった光景も見られました。

六十才、九十才以上の方の出場種目「人生いろいろ、ボールもいろいろ」では、リレー形式の最後の人が「隠し得点の入った封筒を取る」という競技です。走った順位は競わないのですが、ピストルの音が鳴ると上位を目指すお父さん、お母さん方の元気な姿もあり、快い思いがしました。

今回私も支部対抗リレーに出場し、十年前に走った時よりも走れない、足が前に出ない自分を感じました。十代ごとにバトンを繋げていく、地区対抗リレーは、特別な感動を与えてくれます。

今年も中学生のボランティア二十二名の参加があり、放送・景品・演技係に活躍してくれました。地区の行事に参加する若い姿が、今後の地域の力になっていくと思います。

閉会式の時には各地区から勝利地区へ温かい拍手が送られ、一日が終わりました。

今後も皆さまからのご意見や反省点を生かし、楽しい地区体育祭にしていきたいと思います。

中浜　達也

一月二十七日(土) 高齢者のつどい

「第十五回高齢者のつどい」を、去る一月二十七日の土曜日に開催しました。毎年、楽しみにして下さっている多くの高齢者の方々に応えての開催です。しかし、余りの寒さ厳しさの中、富田小学校の体育館設置の二台のストーブだけでは足りず、全員の方へホッカイロを配ったり……熱いお茶を用意したり……工夫をいたしました。

まず、神楽に始まって、倉敷マスターの小崎さんによる南京玉すだれとマジックショウ、健康運動指導士による健康体操、踊りに銭太鼓と矢継ぎ早に午前中を進めました。昼食は、巻き寿司・具だくさんのけんちん汁、漬物二種、熱いお茶です。昼食時を利用して血圧測定や健康相談も致しました。そして午後も健康講話、桜貝の皆さんと共に大きな声で沢山の懐メロを歌いました。どんどん体も温まったところで楽しみのおやつタイム……あんぱんにお茶で一息ついて……最後は、可愛い三歳から十四才までの四十三人の天使たちの新体操です。色とりどりの可愛い衣装にダイナミックな演技に、大きな拍手拍手で、終わりとなりました。

厳しい寒さの精で、例年より参加者が少なかったものの多くの高齢者の方々に、元気と笑顔をお届けできたのではと思っています。少子高齢の時代、子育て支援だけではなく、益々元気で過ごして頂くための高齢者支援も大切な活動だと思っています。

新年度は、十二月を予定していますので、どうぞ多くの方々のご参加お待ちしています。

富田愛育委員会

十二月十六日(土) 第三回富田ほっとタイム交流会について

「富田地区ほっとタイム交流会」は富田ほっとケア会議（西尾精一代表）が主管し、富田地区の高齢者と子どもたち及び社会福祉関係者との交流会を目的として、平成二十七年度から開催されています。今年度は平成二十九年十二月十六日（土）、富田小学校体育館に約九十名（高齢者五十数名、とみた児童クラブの子どもたち及び関係者、社会福祉関係者三十数名）が集い行われました。参加者全体を八グループに分け、ジャンケン大会や綱引き、輪投げ大会などグループ対抗で行う活動やストレッチ体操、昔遊び、富田クイズ、歌を楽しむ時間など全体で行う活動などを実施しました。名司会者、植田洋子愛育委員のリードにより、最初はお互いに少し緊張していた参加者も、あっという間に打ち解けて和やかな雰囲気の中で活動を行うことができました。そして、活動ごとに交流の輪が広がり、昔遊びや当時の生活、地域や子どもたちの様子等々が話題となるなど、グループ内で話が盛り上がっていきました。閉会前に植田愛育委員による「鬼のパンツ」を合唱するころには、「鬼のパンツ」にも負けないくらいの強い絆ができたように思いました。高齢者の方々が、来年もぜひ参加したい、お互いに元気で、などと話されていたことからもこのことが伺えました。

ほっとタイム交流会は今回で第三回目を迎えましたが、諸事情によりここで一歩留まり、次年度、富田地区社会福祉協議会全体の行事をどのようにするかという中で、再考することとなりました。これまで様々な面でご協力いただきました富田地区社会福祉関係諸団体の皆様に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

谷田　陽平

三月四日(日) ラブウォークに参加して

今年の冬は、特別に寒い日が続いたが、三月四日（日）の当日は、おだやかで雨も降らず、最高の行楽日和であった。

まず最初の目的地は、井原市にある樋の尻山嫁いらず観音にお参り。行基菩薩の開祖といわれ、十一面観音をお祀りしてある。

「老いても嫁の手を煩わせることなく、健康で幸せな生涯を全うできる。」という霊験があるそうである。身につまされる想いで、しっかりと手を合わせる。

次なる目的地の上下町は、二〇〇四年に南隣の府中市に編入され、府中市上下町となったそうである。

江戸時代には、旧石見銀山から瀬戸内海への銀山街道の宿場町であり、天領でもあったそうで、街並みは両替商など金融業が栄えたそうである。あちこちにその面影が残っている。

ちょうど、お雛祭りで、商店街などにりっぱな飾り付けが見られる。また上下人形（土人形）という珍しいお雛（？）もあり、散策を優雅にしてくれる。

倉敷とはまた違った素朴な街並みに、大勢の人々が行きかっており、着物姿のかわいい男の子や女の子が目を癒してくれる。

街のはずれあたりには、翁座という大正時代に建てられた木造建築の劇場もあり、初めて知った上下町に感動の一日であった。

田尻　幸子